

# おのえづわ

奉祝 天皇陛下御即位



写真撮影：富井純朗氏

第206号



## 御挨拶

宮司 吉田源彦

天皇陛下には皇位をお嗣ぎになられ、元号も令和と改まり、新しき大御代の始まりを心よりお慶び申し上げますとともに、この令和という御代が、発展と繁栄、そして調和の時代であることをお祈り申し上げる次第です。また、上皇・上皇后陛下には、長きにわたって国民に慈しみを賜り、国民に寄り添われてこられたお姿を拝し、皇室の尊い御存在に感じ入り感謝に堪えません。両陛下の御健勝と皇室の弥栄をお祈り申し上げます。

さて、令和という新しい御代を寿ぐかのように、北海道神宮の例祭が間近となつてまいりました。北海道神宮例祭は、それに続く神輿渡御とを総称して「札幌まつり」と通称されてきました。明治十一年には神宮の神輿が市中を渡御したことから、それが市民の願い出により恒例化して今日まで引き継がれてきました。本年は神輿渡御も百四十回を迎えることとなりました。

明治の頃、北海道も開拓地であり娯楽も殊更になく殺伐としたところであり、一年に一度、神様を市中にお迎えしてお祭りを行うことが、市民にとり何よりの楽しみでもありました。神輿渡御を行うために市中には祭典区という組織ができ、各年の年番を中心に神輿渡御が運営されてきました。神輿を迎える山車が祭りの華で、手古舞や踊り屋台において演じられる芸能は、札幌における邦楽の展開とも密接に関わり、人々を魅了させてくれます。全国から北海道開拓に移入してきた人々が伝えた地域の文化が複合され、札幌まつりという花を開かせたといつても過言ではありません。

開拓の先人たちがその厳しさのもとで見出した祭りの喜び。いま私たちは豊かさの中で祭りに何を見出すのでしょうか。本年は、御祭神が北海道開拓の総鎮守として創祀され百五十年を迎えます。この九月一日には、北海道神宮御鎮齋一五〇年式年祭を斎行させて頂くこととなっています。私たちは開拓の歴史によつて培われた祈りの文化を持っています。札幌まつりはまさに北海道の風土と私たちが作り上げてきた祈りの文化ともいえます。

北海道神宮のこれらの祭りが、北海道でのあたらしい時代の幕開けとなり、この伝統と文化が時代の牽引役となるように努めてまいりたいと思います。どうか皆様には一層のお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

# 年番奉仕にあたり



第七東祭典区代表委員長  
敬神講社 講長 中山圭司

北海道神宮敬神講社年番ご奉仕にあたり、奉仕役員一同を代表し  
ご挨拶を申し上げます。

去る平成三十年十月十七日、神嘗祭並びに年番引継祭が斎行され、第六西創成祭典区から引継いで以来、神宮を始め、各方面の方々と協議を重ね、準備に万端を期しているところです。

本年は、畏くも新帝陛下御即位という国家奉祝の年であり、聖寿の弥栄をご祈念申し上げる次第でございます。

更には北海道神宮の御祭神が神祇官に御鎮齋にられました明治二年より百五十周年という佳節の年にあたり、札幌市内を御神幸する渡御も丁度百四十回目となります。

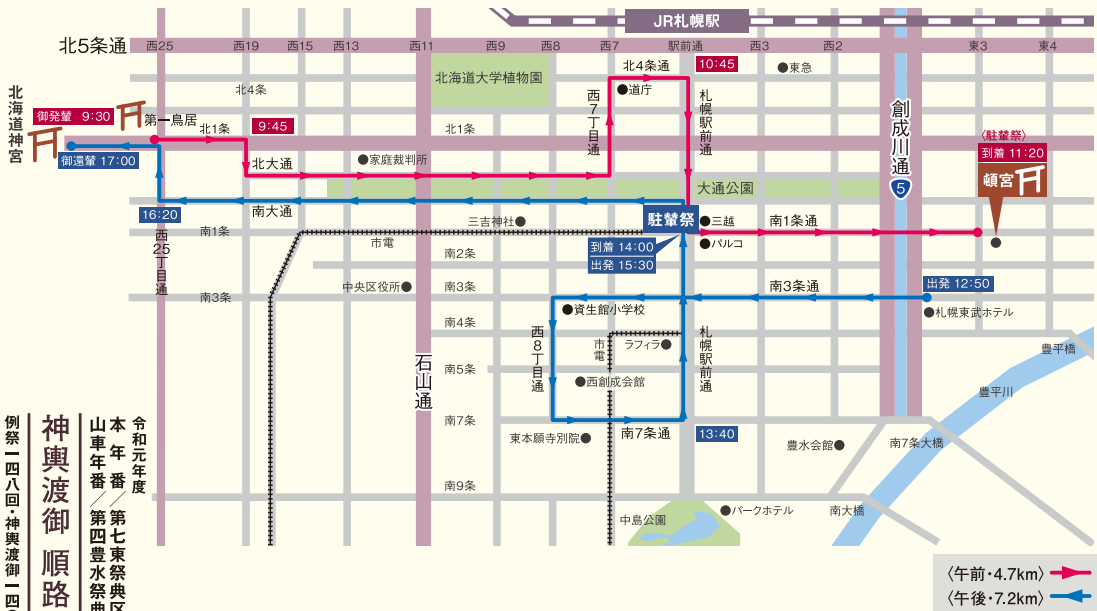
札幌まつりの神輿渡御は、遡れば明治十一年六月十五日、札幌神社（現北海道神宮）例祭並びに札幌神道中教院（札幌神社遙拝所）の落成にあたり、円山の本社より神輿をお迎えしたことに始まります。

この伝統ある札幌まつりの神輿渡御ですが、この度は令和の大御代最初の渡御奉仕をさせていただくこととなり、その重責を感じつつも、身に余る榮譽と思ひ、心からの感謝を申し上げる次第です。

地区住民はもとより年番役員一同総力を挙げて準備を進めてはおりますが、無事ご斎行できますよう、各祭典区代表委員の皆様はじめ関係諸団体の方々には、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

## 神輿渡御 順路図

令和元年度 本年番／第七東祭典区



※予定のため事前予告無く順路が変更となる場合があります。  
※ドローンでの撮影及び上空での飛行はご遠慮下さい。

# 「令和」と「うまし国」と



短歌結社 札幌興風会  
点者 村田 俊秋

四月三日、新しい元号が「令和」であると伝えられた。口に出しての、耳に聞いている、この元号のやらかいひびき、心に入ってくる穏やかさにゆつくりと頷いた。この元号の意味することについては、学者や識者によって説かれているので後に触れたい。

私は頷きながら、舒明天皇の御製を直ぐに思った。万葉集巻二の二にある国見の歌である。以下に記す『万葉集』の原文、書き下し文等は、武田祐吉の『増訂 萬葉集全註釋』（角川書店）に拠っている。

大和には 群山あれど とりよろふ 天  
の香具山 登り立ち 国見をすれば 国原  
は 煙立ち立つ 海原は 鷗立ち立つ う  
まし国ぞ 蜻蛉島 大和の国は

国見とは、春、天皇が聖山に登り、国情の観察と秋の豊穰を祈る儀式であった。この御製に詠まれている「うまし国」とは「すばらしい国」の意である。人々の暮らしの落ち着き、自然の美しさを短い言葉で表している。

この「うまし国」を「怜何國」との漢字に当

てているが、「何」は辞書にはない。万葉集の記録者が、上の「怜」に引かれて「可」を「何」にしたと言われている。荷田春満の『萬葉僻案抄』富士谷御杖の『萬葉集澄』は「可怜」とし、「うまし」と読ませている。

「怜何」でも「可怜」でも、大和の国の素晴らしさを伝えていることには違いはない。

「令和」の考案者は、平成を継ぐ御代に「うまし国」、「つまり」すぐれて、ゆたかな国」を当然、願っているのだ。そして、人々の、国の、世界の更なる「令き和らぎ」を望んでの字の選びであつたと言えよう。

五月二日、令和の御代が始まった。年号は大伴旅人の「梅花歌三十二首 并序」（万葉集巻五）の序文に拠ると伝えられているところである。その一部を引く。

天平二年正月十三日、萃千帥老之宅、申宴會也。干時初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香。（中略）詩紀落梅之篇、古今夫何異矣。宜賦園梅、聊成短詠。（天平の二年正月十三日、帥の老の宅に萃まるは、宴會を申ぶるなり。時に初春のよき月にして、氣淑く風和み、梅は披く鏡の前の粉、蘭は薫る珮の後の香。（中略）詩に落梅の篇を紀せり。古と今とそれ何ぞ異ならめや。

（口語訳は省く）

右の原文、書き下し文から確認できることは、

一つには「令」と「和」がここにある、一つには「令月」を「よき月」と読んでいる、二つには原文で分かるように、句が四字と六字から成っている、である。

この三つめの四字、六字の構成による文は四六駢儷文と呼ばれているものである。旅人の「梅花歌」の序文の書き手は、この旅人か部下の山上憶良（当時、筑前守）かなどと言われている。憶良は渡来人とも言われており、その漢詩文に通じていることは、「瓜食めば子ども思ほゆ」で始まる長歌の、漢文による序文でも分かる。とすれば、東晋の書家である王羲之の「蘭亭序」（駢儷体による名文）を知っているとと思われる。「梅花歌の序」への影響があつたろうと考えていい。

また、六朝時代の中国の詩文集『文選』に収録されている張衡の「歸田賦」にある「於是仲春令月 時和氣晴」からも、新元号への関わりがあるとされているのは、憶良の存在を考えると不自然ではない。

このように考えられるとしても、典拠は『万葉集』。国書である。旅人、憶良の思いと詩性、「うまし国」と詠まれた舒明天皇の語りかけ、そして「令和」の考案者の深い探り。これらの統合されての新元号なのである。

日本人の温和にして賢明なる国民性。これが複雑な世界状況の中で、新しい御代を豊かに築きあげてゆくことを信じてやまない。

# 社頭風景

三月  
五月

## 御讓位御安泰祈願祭

先帝陛下におかれましては、御讓位なされることとなり、それに伴う諸儀式・諸行事が行われました。全国の神社では、その儀式・行事等が恙なく執り行われますことを祈願して、御讓位御安泰祈願祭が斎行されました。北海道神宮では、多くの方に「参列いただけるよう、四月二十九日の昭和祭にあわせ執り行いました。祭典では巫女による悠久の舞が奉奏され、宮司以下祭員、参列者一同玉串に祈りを込めて拝礼し、御安泰を祈願しました。



悠久の舞

## 踐祚改元奉告祭

皇太子徳仁親王殿下には「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」の施行を以て、五月一日、踐祚あらせられました。

また、「元号を改める政令」が施行され、御讓位により元号が「平成」より「令和」に改められました。北海道神宮では、同日

午前十時より「踐祚改元奉告祭」が執り行われ、新帝陛下が皇位をお嗣ぎになられたこと、元号が改められたことが神前に奉告されました。祭典では祝詞奏上の後、皇紀二千六百年を記念して、昭和天皇御製に作曲舞された「浦安の舞」が奉奏されました。当日は新たな大御代を寿ぐべく、多くの参拝者で社頭が賑わい、御神前にお参りするため列を成していました。特に御朱印を求める参拝者の列は長く、閉門後まで続きました。



浦安の舞



参拝者の列

## 北海道神宮 頓宮

### 踐祚改元奉告祭

五月二日頓宮では、午前零時に併せ「踐祚改元奉告祭並びに二日講社誕生祭」を斎行、祭典終了後に社務所講堂にて「奉祝 天皇陛下御即位記念式典」を開催しました。

平成最後の四月三十日、午後十時から地域の方々で作成したキャンドルが参道を灯し、零時に併せて、参道には参拝者の列も出来、記帳所にも多くの方々が記帳をされました。祭典は、二日講社の講員を始め氏子約九十九名が参列し、井澤権宮司齋主のもと厳肅に斎行され、式典では皇居遙拝、饗乃会による「寿獅子」の舞が披露され、参列者全員で聖寿の萬歳を捧げて奉祝行事が終了しました。



記念式典

## 入学祭

三月二十四日(日)春の日差ししのか、第三十六回入学祭が午前十一時と午後二時に斎行されました。札幌市内全区より二百十四名ものお申し込みをいただき、拝殿は色とりどりのランドセルを背負う新入学児童とそれを見守る保護者の皆様で埋め尽くされました。



新入児童の玉串拝礼

宮司の祝詞の後、巫女による神楽「豊栄の舞」の奉奏、国家「君が代」の斉唱の後、児童一人ひとりが玉串を捧げ、健康や就学の安全などの願い事を込めながら拝礼し、最後に御神前で記念の集合写真を撮影しました。

## 昭和祭



祝詞奏上

昭和天皇の大業を景仰する昭和祭が、四月二十九日(月・祝)午前十時、北海道神宮にて斎行されました。昭和天皇は摂政の宮であらせられました大正十一年、即位後は昭和十二年、昭和三十六年、昭和四十三年の四度に渡り北海道神宮をご参拝になりました。

北海道神宮の御祭神である明治天皇は、昭和天皇の御裁可を賜り御増祀となりました。当日は参列者一同、改めてゆかり深い昭和天皇の御代を顕彰し、皇室の弥栄と国家の発展を祈りました。

## 鯉のぼり泳ぐ

五月七日(火)より五月二十日(月)まで、神門前に元気に鯉のぼりが泳ぎ、内外よりの参拝者にご覧いただきました。



神門前に泳ぐ鯉のぼり

## 植樹祭並びに剪定奉仕

五月四日(土)午前十時より本殿での植樹祭に引き続き、社団法人札幌造園協会による剪定奉仕、ボーイスカウトによる植樹作業が行われました。



植樹するボーイスカウトの子供達

## 神武天皇祭遙拝

四月三日(水)午前九時、神門下祓所に於いて、神武天皇祭遙拝を斎行しました。



神武天皇祭遙拝

## 北海道神宮御鎮齋百五十年記念 第三十二回開拓神社杯 少年野球大会開会式

平成三十二年四月二十七日(土)午後五時半、北海道神宮御鎮齋百五十年記念 第三十二回開拓神社杯少年野球大会開会式奉告祭並びに開会式が、北海道神宮拝殿に於いて行われました。大会の安全を祈念し、神職による祝詞奏上後、各チームの監督とキャプテンが玉串奉奠を行いました。

引き続き開会式が行われ、我孫子健大会長の挨拶の後、前回大会優勝の東雲ライオンズ、準優勝の篠路ライオンズの各チームより旗とトロフィーが返還されました。その後、大会運営についての説明があり、伏古ファイターズ主将合田明翔君(ごうたあきと)が選手宣誓を行いました。平成から令和への御代替り、また北海道神宮御鎮齋百五十年という節目の年の大会に、選手達は互いの健闘を誓い合いました。



選手宣誓

た。この日より、総勢二十チームによるトーナメント試合が行われ、決勝戦は八月五日(月)午後時より札幌つどいむに於いて行われ、閉会式並びに表彰式は開拓神社例祭に合わせ、八月十五日(木)午前七時四十五分に行われます。

## 神饌田御田植祭

五月九日(木) 旭岳

の麓に広がる東川町の北海道神宮神饌田にて、第四十一回神饌田御田植祭が斎行されました。早朝から北海道農業協同組合中央会・東川町



早乙女による田植え

農業協同組合青年部の方々により会場が設営され、本年は天皇陛下御即位奉祝の幟を立て、午後一時より国歌斉唱の後に祭典が始まりました。田長を北海道農業協同組合中央会副会長の小野寺俊幸氏、田長介助役を北海道農業協同組合中央会の協同活動推進室室長の高橋直樹氏、耕作長を東川町農業協同組合の組合長樽井功氏がそれぞれ務め、祭儀が厳粛に執り行われました。

札幌からは奉仕団約40名が参列し、豊作の祈りを込め、早乙女の田植えに合わせて田植え歌を歌いました。祭典終了後に一行は白金観光ホテルに宿泊し、翌日は日本醤油工業の直売所を見学、深川神社を正式参拝の後、金滴酒造などを見学して帰路に着きました。

## 五月人形展示

四月二十二日(月)より五月二十日

(月)まで祈祷者控殿において、人形作家の山田裕嗣氏所蔵の江戸から昭和までの貴重な五月人形を展示しました。端午の節句は、古来より宮中で行われていた厄除けの行事が武家、庶民へと広がったものといわれます。もともと魔除けとして作られた武者人形や兜などが飾られていましたが文化・技術の発展に伴い人形の種類も増えていき、今日の五月人形の飾りになったといわれています。今回も多く種類の種類が展示され、男児の健やかなる成長を祈る人々の思いや文化を感じることができ



五月人形展示

# 開拓判官 島義勇 顕彰の集い

## 開拓判官島義勇顕彰祭

開拓判官島義勇顕彰会の主催により、四月二十一日(日)午前十時より北海道神宮参集殿に於いて、百九十名の参列者のもとに、顕彰祭が斎行されました。開拓判官としての北海道での功績・初代秋田県権令(知事)としての秋田県での功績を讃える祝詞奏上の後、巫女二人舞による「式神楽」、吟詠講長有馬郁文氏による島判官作の漢詩並びに秋田県権令拜命時の和歌の吟詠がありました。来賓として山



お供えされた奉納品

口祥義佐賀県知事や秀島敏行佐賀市長、

吉川貴盛農林

水産大臣、島

義勇ご子孫の

方々、札幌秋

田県人会、ま

た、在札幌の

総領事館から

は中華人民共

和国とロシア

連邦共和国よりそれぞれご参列をいただき、

島判官ゆかりの地である佐賀や秋田からは地

元のお米や銘酒など、特産品の奉納が多数あ

り、祭場にお供えされました。

参列者一同、百九十五万都市となった今日の

札幌の発展は、島判官の壮大且つ先見性のある

都市計画のお蔭であると深く感謝の誠を捧

げました。

尚、当日は「開拓判官島義勇特別展」を北

海道神宮社務所「楓の間」に於いて開催しまし

た。島判官の佩刀や石狩大府指図などを展示

し、大勢の方々にご覧いただきました。



開拓判官島義勇特別展示

## 顕彰の集い

午前十二時三十分より、会場を京王プラザホテル札幌に移し、島判官の顕彰と、佐賀県と秋田県、そして北海道・札幌との「絆」を深め、先人の「志」を次世代へ継承すべく「開拓判官島義勇顕彰の集い」を、二百十五名参加のもと開催いたしました。

まず札幌市公文書館榎本洋介先生より「札幌の都市建設の開始」と題して、プロジェクトによる貴重な資料映像と共に、札幌が選定された経緯や島義勇の札幌建設計画等について講演をいただきました。



講演会





ご来賓とご子孫の方々

引き続き午後十二時四十分より同ホテル会場にて懇親会が開催され、主催者を代表して吉田源彦代表世話人が挨拶をし、佐賀県知事山口祥義様、北海道知事高橋はるみ様(代理阿部啓二副知事)、札幌市長秋本克広様よりお祝いの言葉をいただき、内閣官房副長官西村康稔様をはじめ、島判官が初代権令を務めた秋田県を代表し秋田県知事佐竹敬久様、北海道の名付け親であります松浦武四郎の出身地三重県松坂市から松坂市長竹上真人様他、佐賀県・秋田県・三重県・北海道選出の国会議員他有志よりの祝電が披露された後、佐賀県議会議長石倉秀郷様の発声により乾杯し、参加者一同懇親を深めました。

### 平成三十一年 開拓判官島義勇顕彰祭奉納者一覽 (敬称略・順不同)

- 佐賀県知事 山口祥義  
特別純米酒「佐嘉の穂」1本
- 農林水産大臣 衆議院議員 吉川貴盛  
特別純米酒「秀島敏行」1本
- 佐賀市市長 秀島敏行  
酒王「窓乃梅」2本 佐賀海苔「佐賀市のり」2箱
- 佐賀県神埼市市長 松本茂彦  
清酒「天吹」2本 ひしほろうろ 1箱 神埼麦焼酎 1本
- 佐賀県白石町町長 田島健一  
運根 2「Lサイズ」2箱
- 衆議院議員 衆議院議員 今村雅弘  
特別栽培米「夢しずく」30kg 30kg×1
- 佐賀県議会議長 石倉秀郷  
純米吟醸「肥前蔵心」1本 純米吟醸「鍋島」1本
- 佐賀県神埼市市議会議長 山口義文  
清酒「北の勝大海」1本 清酒「お福正宗糟重原酒」1本
- 佐賀市議会議員 黒田利人  
酒王「窓乃梅」2本
- 佐賀市議会議長 武藤恭博  
酒王「窓乃梅」2本
- 佐賀市議會議員 福井章司  
酒王「窓乃梅」2本
- JJA全農顧問 中野吉實  
特選「東長」1本
- 佐賀商工会議所会頭 井田出海  
佐賀海苔「明海番」3枚×3 超辛口純米吟醸「アカズ」2本
- 佐賀県農業協同組合中央会会長 金原壽秀  
「さびより」化粧箱入 10kg 3箱 清美オレンジ 1箱
- 佐賀県農業協同組合代表理事組合長 大島信之  
佐賀牛ロースステーキ20g 3枚入 1箱 嬉野茶ギフト 1箱
- 佐賀県農政協議会会長代行 伊東正美  
金杖「東長」1本
- 佐賀県有明海漁業協同組合代表理事組合長 徳永重昭  
佐賀海苔 100袋
- 医療法人聖医会藤川病院理事長 藤川謙二  
酒王「窓乃梅」1本
- 国際文化協会理事 金ヶ江悦子  
純米大吟醸「権右衛門」1本
- 岡山神社宮司 宮田風臣  
上撰「宗政」3本
- 太良嶽神社宮司 石井和明  
小城羊羹詰の合わせ5樽入・3樽入各1箱
- 佐賀県立佐賀北高等学校三年 坂口夢依  
色紙「絆」拓魂「書」各1枚
- 佐賀県立佐賀城本丸歴史博物館館長 七田忠昭  
書籍「佐賀県史」15巻「1」号 書籍「漫鴨鍋島西正」1冊  
書籍「ながらす祭」を詠みきた男 1冊
- (有)小笠原商店 代表取締役 藤田栄一  
もち米 あめ 40本
- (株)番館 代表取締役 坂本直樹  
十四代中里太郎右衛門窯絵唐津皿 1枚
- (株)村岡総本舗 代表取締役 社長 村岡安廣  
羊羹 2本入 1箱
- 佐賀県酒造組合 会長 古賀醸治  
奉納品取り 纏め
- 矢野酒造(株) 矢野善紀  
純米吟醸「権右衛門」1本 純米吟醸「肥前蔵心」1本
- 松浦酒造(株) 田尻泰浩  
清酒「松浦誠」2本
- 宗政酒造(株) 代表取締役 山崎耕造  
上撰「宗政」2本
- 天山酒造(株) 田本謙介  
超辛口「天山」2本
- 大和酒造(株) 福岡桂  
吟醸「肥前社氏」2本
- 鳴滝酒造(株) 古館正典  
上撰「聚楽太閤」2本
- 東鶴酒造(株) 野中保斉  
純米酒お燗酒「東鶴」2本
- 幸姫酒造(株) 峰松幸弘  
清酒「幸姫」2本
- 井手酒造(株) 井手洋子  
上撰「虎之児」2本
- 富久千代酒造(株) 代表取締役 飯盛直喜  
吟醸「肥右鍋島」2本
- 五町田酒造(株) 代表取締役 瀬頭平  
上撰「東」2本
- 内田光孝  
純米大吟醸「きたしずく島義勇」1本
- 参議院議員 石井浩昭  
秋田県産「雪の芽倉」3本
- 秋田県農業協同組合中央会 会長 船木耕太郎  
30年産「天恵米あきたこまち」5kg×4袋
- (株)秋田県物産振興会 代表取締役 藤澤博英  
高級清酒「高清水」2本
- 秋田県人会  
純米吟醸「雪の芽倉」1本 純米吟醸「まんまんの花」1本  
純米吟醸「やまとしずく」1本
- 秋田銀行札幌支店 支店長 進藤豊
- 秋田清酒「飛良泉」2本
- 北海道商工会議所連合会 会頭 岩田圭剛  
大吟醸「雪原の舞」1本
- 北海道経済連合会 会長 高橋賢友  
大吟醸「北の稲穂」2本
- ホクレン  
北海道産米「北海道みんなの米」25kg
- 元衆議院議員 石川智弘 衆議院議員 石川香織  
純米大吟醸「権右衛門」1本
- サポロビール(株) 北海道本社 代表 小野寺哲也  
開拓使麦酒 330ml 3本入×4箱
- タイプードリンク(株)  
ベトボトル入お茶 500ml 24本入り 15箱
- (株)北菓楼 代表取締役 社長 堀安規良  
開拓おかし 帆立・昆布 2本入 30箱
- 岩田地崎建設(株) 代表取締役 社長 岩田圭剛  
特別純米酒「札幌村」3本
- (株)丸亀 代表取締役 若月英晶  
秋田清酒「飛良泉」2本
- (高)合資会社 岡安泰代表 役員 上野 鈴木真智雄  
「北の判官豆」100袋
- グランド居酒屋富士 代表取締役 大島正  
上撰「天山」3本
- 郷土料理おが 代表取締役 小松正博  
稲庭うどん 30箱 いぶりがご 40袋
- 富井純麴  
特別純米酒「白神山地の四季」2本

# 第九回北海道神宮フォトコンテスト表彰式

四月二十七日(土)午後

二時より第九回フォトコンテスト表彰式が、北海道神宮参集殿で行われました。吉田宮司より挨拶があり、引き続き入賞者に賞状と記念品が授与されました。一般部門の応募は、七一点、学生部門の応募は三〇点で、総数二〇一点の作品より写真家の佐藤雅英先生、ファッションデザイナーの越智真紀子先生をはじめとする審査員による、審査の結果、入賞者が決定されました。作品は四月二十七日(土)より五月二十日(月)まで西回廊にて展示されました。第十回フォトコンテストの募集も来年三月十日の締切で行っております。応募要項の詳細は北海道神宮ホームページをご覧ください。

## 一般の部(入賞)

## 学生の部(入賞)

### 神宮賞



「はいチーズ!」  
佐藤 喜則

### 神宮賞



「浄める」  
梅川 歩希

### 奨励賞



「ラスト一杯、気合いの雄叫び」  
佐々木 郁太郎

### 奨励賞



「届かぬ想ひ」  
石井 芽依

### 奨励賞



「桜色参道」  
佐竹 輝昭

### 奨励賞



「結」  
小椋 亜美

■安藤 實夏

「年神様  
おいでなさいませ」

■岩間 廣

「初詣の日は雪」

■岩間 廣

「二十歳を撮る」

■魚野 裕二

「それぞれの祈り」

■貝沼 正雄

「みそぎ」

■貝沼 正雄

「出来秋」

■門脇 正法

「大停電の夜に」

■佐々木 直子

「成人の舞」

■佐藤 千尋

「見つかった!」

■佐藤 昌弘

「ひよっこ踊り」

■柴田 康弘

「的中の予感」

■染谷 庸雄

「注目の神宮に初宮参り」

■染谷 庸雄

「七五三参りの日」

■長友 逸郎

「観客と踊り」

■はやし ひろし

「雅な二人」

■堀野 正憲

「ギャラリー応援団」

■宮田 芳明

「平成最後のお焚きあげ」

■村崎 淳一

「日本文化に囲まれて」

■山神 幸子

「宴の余韻」

■山根 則久

「うたげのよいん」

■山根 則久

「七五三詣りの日に」

## 一般の部(入選)

特集

がんばれ！  
北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの(47)

報徳精神掲げて開拓 二宮尊親

にのみやたちか

二宮金次郎つてどんな人？と尋ねても、答えられない人が多いようです。昔はどの小学校校庭にも、薪を背負い本を読む金次郎像が立っていました。この金



二宮尊親

次郎改め尊徳の長男が尊行、その長男の尊親が十勝豊頃町の開拓者なのです。

尊親は下野国(栃木県今市)で生まれ、十七歳で家督を継ぎ、先祖の隠徳、積善、儉約の精神を守り、疲弊した相馬地方の農村を建て直そうと努めました。だが二〇〇〇ヘクタールの開墾事業が明治維新の混迷により失敗してしまいました。

この時、尊親の頭に閃いたのが北海道の開拓でした。実は祖父尊徳が存命中、幕府から蝦夷地開拓の内命を受けたのに、実現しなかったのです。

明治二十九年春、尊親は、札幌農学校卒業の大槻由己らを引き連れて栃木県相馬郡石神村を出発しました。箱館を経て室蘭に上陸し、二班にわかれて、一班は入植地探しに空知へ。一班は札幌へ出て道庁へ赴き、開墾地の状況を調べました。

しかし石狩・空知は大部分が開拓されて、入植できる土地はありません。上川、富良野も調査しましたが、物資輸送が難しく、日高も農地となる適地はなく、海岸線を辿って着いたのが十勝川の河口でした。

十勝川を逆上り、幕別付近に上陸した尊親は、帯広で晩成社の依田勉三と会い、相談しましたが、入植地は見つかりません。

落胆して宿泊した旅館で、宿の女性から、シカやクマを追って山野を駆け回っているアイヌ青年を紹介されます。土地を熟知している青年は「大津の近くに牛首別という原野があり、土地はよく肥えている」と教えてくれたのです。

若者に案内されて目にした牛首別原野は広大なものでした。尊親はここに「理想の村を建設しよう」と決意し、農民会社興復社を設置することにしました。七月二十九日のことでした。

札幌へ出向いた尊親は、北海道長官と会い、二五〇〇ヘクタールの土地払い下げの手続きをしました。帰郷して九月、興復社の総会を開き、移民による開拓が決まりました。

十月から移民募集が始まりました。募集内容には、戸につき原野五ヘクタールを配当する。六年以内に開墾し、報徳金を完納した者は、所有権を譲渡する、と記されています。翌明治三十年三月、尊親の家族を含む第一陣の十四世帯七十五人が「興復社」の旗を翻して勇躍出発しました。

入植者たちは開墾地を二ヘクタールほど耕して、野菜の種を蒔きました。秋には大量に収穫できましたが、まもなく雪が降り、あまりの季節の変化に驚かされました。

移住は翌明治三十一年から毎年、三十戸から五十戸が入植し、人口は千人にもなりました。

尊親は茂岩から開墾地の農場事務所まで十キロの道を毎日通いました。農場内に二宮神社を建て、「報徳の教え」をもとにした集落作り、人作りに努めました。この教えは尊徳が唱えたもので、神道、儒教、仏教の思想を背景にした理想の社会を目指すものです。牛首別報徳会が設立され、尊徳の命日には会合を開き、励まし合いました。

こうして十年の月日が経過し、尊親は開拓のメドがたつたとして明治四十一年、この地を離れました。晩年は尊徳遺稿を整理し『尊徳全集』三十六巻などを発刊します。亡くなったのは大正十二年。六十八歳でした。



二宮尊親の歌碑＝豊頃町役場前

◆プロフィール◆

昭和九年(一九三四)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『八間登場』北の歴史を彩る『大君の刃』など。

# 奉賛会だより

## 奉賛会大祭

五月十一日(土)岩田会長をはじめ約二五〇名の会員が参列して奉賛会大祭が斎行されました。

祭典終了後は参集殿で総会が開催され平成三十年度事業報告並びに収支決算、令和元年度事業計画案並びに収支予算案が満場一致で採択されました。



総会

### 新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。平成三十一年三月一日から令和元年五月十五日までのご入会の方、またご協賛頂きました方のご芳名(敬称略)をご報告致します。

お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

#### 新入会員のご紹介

中富良野 俵みこし同志会 湯口 晃弘  
齊藤 綾花  
平 星児  
竹村 まゆみ  
三上 まゆみ  
田中 聖美  
矢野 善紀  
矢野 美代子  
西村 拓  
下野 高  
大野 仁宏  
檜垣 尚子

### 協賛者のご紹介

#### ◇五万円

伊藤組土建(株)  
代表取締役社長

玉木 勝美

#### ◇三万円

(株)オートランド札幌  
代表取締役  
岩田地崎建設株式会社

山崎 隆士

#### ◇二万円

大長 記興  
(有)桜井  
北陽ビルサービス(株)  
代表取締役  
みずほ証券(株)札幌支店  
(株)大室洗染所  
中峰建設(株)

其田 雅人

(株)グランビスタホテル&リゾート  
札幌パークホテル

(一社)北海道商工会議所連合会  
北海道神社庁

若原 高穂

副庁長  
(株)五英商事

(株)丸亀

若月 英晶

(株)佐藤商会  
代表取締役

小野 葉子

#### ◇五千元

佐藤 明代  
大島 佳子  
大島 恵子  
株式会社シテイプラザプランニング  
代表取締役

生方 淳

#### ◇三千元ほか

櫻原 元・なつき  
矢口 憲雄  
出崎 智治  
伊藤 啓二  
富松 政美  
香川 睦美

### 平成三十年度事業報告

#### 〈事業実施状況〉

- 一、会 議
  - ・理事会 (書面)平成三十年四月
  - ・総 会 平成三十年五月十三日
  - ・常任幹事会
- 平成三十年三月二十九日
- 二、北海道神宮奉賛会大祭の実施
- 五月十三日の総会に先立ち、約三〇〇名の参列者のもと斎行されました。
- 三、会員の動態
  - (平成三十一年三月三十日現在)
  - ・在籍会員数二、二八〇名
  - ・新入会員数四十六名
  - ・(前年度六十八名)
  - ・準会員数五五六名
- (本社挙式の方々に二年間に限り準会員として処遇)
- 四、屋根銅板奉納事業  
(平成三十一年三月三十日現在)
- ・屋根銅板 三二五枚
- 五、施設整備事業
- ・北海道神宮の佳節に向けて資金の積立をしました。

六、教化事業

- ・札幌まつり振興会に協賛しました。
- ・札幌まつりに渡御奉仕員を募集し、二〇〇名程の参加者の奉仕に協力しました。
- ・ポーンスカウト・ガールスカウト育成に協賛しました。
- ・北海道神宮養心館(少年剣道)育成に協賛しました。
- ・第三十二回「境内清掃奉仕」は十月二十八日(日)に行われ、五十八名の参加を頂きました。

七、会員関係事業

- ・入会時に会員証と会員バッジ及び門標を送呈しました。
- ・会員に家内安全の祈禱による昇殿参拝を勧奨しました。(年間約四〇〇件)
- ・新年の祈禱神札・本曆・絵馬・神道教化資料などを送付しました。
- ・年に四回「奉賛会だより」を登載した社報「北の志づめ」を送付しました。
- ・正月七日間、神酒拝戴をしました。
- ・本社にて挙式をされたおふたりに一年間準会員として会員証の発行と「北の志づめ」を送付しました。

八、役員異動一覧

【退任】

理事 (平成三十年五月)	北海道銀行元頭取	藤田恒郎
理事 (平成三十年十月)	北海道神宮責任役員	笹嶋昭雄
理事 (平成三十年十月)	北海道神宮責任役員	高木典雄
理事 (平成三十年三月)	北海道神社庁庁長	吉田源彦
理事 (平成三十年三月)	北海道神社庁理事	山内豊一
理事 (平成三十年三月)	北海道神社庁理事	丸井芳明
理事 (平成三十年三月)	北海道神社庁監事	三澤幸三
理事 (平成三十年三月)	北海道神社庁参事	飯野典美
監事 (平成三十年十月)	北海道神宮責任役員	高木典雄
常任幹事 (平成三十年三月)	北海道商店街振興組合連合会専務理事	竹内善明

【就任】

理事 (平成三十年五月)	北海道銀行代表取締役会長	塚八義博
理事 (平成三十年十月)	北海道神宮責任役員	荒 邦弘
理事 (平成三十年十月)	北海道神宮責任役員	若林雅教
理事 (平成三十年四月)	北海道神社庁副庁長	北方幸彦

理事 (平成三十年四月) 進藤卓嗣  
北海道神社庁理事

理事 (平成三十年四月) 濱村公彦  
北海道神社庁監事

理事 (平成三十年四月) 佐々木貴教  
北海道神社庁監事

監事 (平成三十年十月) 若林雅教  
北海道神宮責任役員

常任幹事 (平成三十年三月) 針山百合江  
北海道商店街振興組合連合会専務理事

(予定者を含む)

令和元年度事業計画

平成三十二年四月二日から  
令和二年三月三十一日まで

1、会議の開催

総会・理事会・常任幹事会を開催します。

2、北海道神宮奉賛会大祭の実施

北海道神宮奉賛会大祭を斎行します。

3、会員の増強

本年も引き続き、会員及び関係機関の協力を得まして、会員増強を図りたいと思います。結婚式や祈禱を受けられた崇敬者を対象に、入会のご案内を申し上げます。

4、屋根銅板奉納事業

本年も引き続き、屋根銅板奉納の事業を推進します。

5、施設整備事業

北海道神宮御鎮斎一五〇年式年祭記念事業に協賛します。

6、教化事業

・御大典記念の奉祝活動を北海道神宮と協力して実施します。  
・季刊誌「皇室」の会員配布、並びに神宮社頭での配布への協力をします。

・北海道神宮並びに関係団体とともに青少年育成の教化事業の推進を図ります。  
・北海道神宮境内の清掃奉仕を実施します。

・札幌まつり渡御奉仕員の募集を実施します。

・北海道開拓の歴史の闡明と先人諸霊の敬仰顕彰の事業を実施します。

7、会員関係事業

- ・入会時に、会員証を発行し、会員バッジ・門標を送呈します。
- ・新年の祈禱神札・本曆・絵馬・神道教化資料などを送呈します。
- ・年に四回「奉賛会だより」を登載した社報「北の志づめ」を送付します。
- ・会員優遇の「家内安全」の祈禱の昇殿参拝を勧奨します。
- ・正月七日間、神酒拝戴を実施します。
- ・本社にて挙式を挙げられた方に一年間準会員として会員証の発行と「北の志づめ」を送付します。

## 札幌まつり ご協賛団体紹介

札幌まつり振興会を通じて  
昨年の札幌まつりにご協賛  
頂きました皆様をご紹介さ  
せて頂きます。ご篤志誠に  
有り難うございました。

(敬称略)

- 北海道ガス株式会社
- 一般社団法人札幌建設業協会
- 岩田地崎建設株式会社
- サッポロビール株式会社北海道本社
- 北海道百貨店協会
- 一般社団法人札幌銀行協会
- 札幌狸小路商店街振興組合
- 株式会社石川物産館
- 一番街商店街振興組合
- エ・ウォーター株式会社
- 株式会社さいとう
- 札幌通運株式会社
- 株式会社札幌都市開発公社
- 一般社団法人札幌ハイヤー協会
- 札幌四番街商店街振興組合
- 株式会社福本商店
- 株式会社はくせん
- 北海道神宮祈請講
- 北海道神宮奉賛会
- 北海道神宮奉賛むすび会
- 株式会社北海道新聞社

- 三井物産株式会社北海道支社
- 三菱商事株式会社北海道支社
- 株式会社NTTドコモ北海道支社
- 株式会社北弘電社
- 札幌商工会議所
- 株式会社セコマ
- 日本中央競馬会ウイメンズ札幌
- 株式会社ニトリホールディングス
- 二番街商店街振興組合
- 株式会社パルコ
- 東日本電信電話株式会社北海道事業部
- 株式会社藤井ビル
- 株式会社北洋銀行
- 株式会社北海道銀行
- 北海道酒類販売株式会社
- 北海道マツダ販売株式会社
- 北海道旅客鉄道株式会社
- 株式会社アインホールディングス
- アサヒビール株式会社北海道工場
- 株式会社アミニアップ
- 池田煖房工業株式会社
- 勇建設株式会社
- 石屋製菓株式会社
- 板谷土建株式会社
- 伊藤組土建株式会社
- 株式会社伊藤塗工部
- 今井金商株式会社
- 株式会社HPI
- SOC株式会社
- SDエンターテイメント株式会社
- 遠藤興産株式会社
- 大友運送株式会社

- 曲ノ高橋水産株式会社
- 加森観光株式会社
- 未来のアクリ株式会社
- 株式会社玄米酵素
- 札幌工業株式会社
- 札幌駅総合開発株式会社
- 札幌三番街商店街振興組合
- 北海道信用金庫
- 札幌第一興産株式会社
- 札幌土建工業株式会社
- 新日本通信工業株式会社
- 大黒目工株式会社
- 株式会社田中組
- 株式会社つうけん
- つばめ自動車株式会社
- フルテック株式会社
- 株式会社電通北海道
- 道路工業株式会社
- 中井聖建設株式会社
- 社会医療法人医仁会中村記念病院
- 株式会社ニッセンエスコート
- 日本栄養食品株式会社
- 日本清酒株式会社
- 日本通運株式会社札幌支店
- 白馬堂印刷株式会社
- 橋本電気工事株式会社
- 藤光鋼材株式会社
- ホクレン農業協同組合連合会
- 北海道自動車工業株式会社
- 北海道エネルギー株式会社
- 北海道火災共済協同組合
- 北海道中央バス株式会社

- 北海道放送株式会社
- 株式会社北海道ロビアン商事
- 札幌みらい中央青果株式会社
- 株式会社マルケンビル
- 丸水札幌中央水産株式会社
- 丸彦渡辺建設株式会社
- 株式会社メデア・マジック
- 株式会社萌福祉サービス
- 株式会社モロオ
- 横山食品株式会社
- 株式会社アイティ・コミュニケーションズ
- 寿産業株式会社
- 株式会社第二ホテル
- 株式会社リョウワ
- 北都交通株式会社
- 札幌ホテル旅館協同組合
- 山藤三陽印刷株式会社
- 株式会社石山組
- 共通運送株式会社
- クワハラ食糧株式会社
- 一般社団法人札幌観光協会
- 札幌中央アーバン株式会社
- 札幌テレビ放送株式会社
- 株式会社敷島屋
- 新栄クリエイト株式会社
- 株式会社すし善
- 株式会社スハラ食品
- 税理士法人知野・寺田会計事務所
- センター株式会社札幌主管支店
- 中山食品工業株式会社
- 株式会社遊鶴
- 株式会社北友

北海道クリーンシステム株式会社  
 株式会社丸高青果  
 安田興業株式会社  
 株式会社オオイ工務店  
 北電力設備工事株式会社  
 株式会社小松  
 札幌第一観光バス株式会社  
 株式会社藤井工務店  
 北海道ライナー株式会社  
 株式会社ホンタ四輪販売北海道  
 三菱地所株式会社  
 豊松吉工業株式会社  
 株式会社アイアイ・テー  
 株式会社あいプラン  
 青池水産株式会社  
 秋津道路株式会社  
 有限会社アクト警備オフィス  
 旭イノベックス株式会社  
 旭運輸株式会社  
 アサヒ住宅株式会社  
 株式会社アスピック  
 株式会社アトリエンク  
 株式会社イーストン  
 池田食品株式会社  
 特定医療法人柏葉脳神経外科病院  
 株式会社エース  
 株式会社エフエム・ノースウエーブ  
 株式会社エミヤ  
 株式会社エル技術コンサルタン  
 株式会社大室洗染所  
 岡本興業株式会社  
 片桐機械株式会社

株式会社カナリヤ  
 株式会社カネイ  
 株式会社キタデン  
 北日本ビル管理株式会社  
 株式会社きのとや  
 株式会社木村  
 協信電気工業株式会社  
 株式会社ケイジー技研  
 ケント・ハウス株式会社  
 株式会社構研エンジニアリング  
 株式会社小山製麩所  
 先本建夫税理士事務所  
 札幌開発株式会社桑園自動車学校  
 札幌開発株式会社  
 札幌河辺石油株式会社  
 札幌警備株式会社  
 株式会社札幌振興公社  
 札幌第二交通株式会社  
 札幌中央信用組合  
 札幌トヨベツ株式会社  
 サツドラホールディングス株式会社  
 札幌パブリック警備保障株式会社  
 株式会社札幌パ  
 株式会社札幌北洋カド  
 株式会社札幌流通倉庫  
 佐藤水産株式会社  
 株式会社サン広告社  
 株式会社シー・イー・サービス  
 ジェイ・オール北海道バス株式会社  
 北洋証券株式会社  
 株式会社昭和ビル  
 株式会社食品急送  
 株式会社食品資材

株式会社全道警備センター  
 大輝印刷株式会社  
 ダイシン設計株式会社  
 株式会社太平ホーム北海道  
 株式会社滝川自工  
 竹内建設株式会社  
 株式会社中華札幌  
 月寒運輸株式会社  
 株式会社土屋ホーム  
 株式会社テックサププライ  
 寺町鉄筋工業株式会社  
 東京美装北海道株式会社  
 株式会社道新アクティ  
 株式会社道新サービスセンター  
 株式会社道新文化センター  
 TOTO北海道販売株式会社  
 道都化学産業株式会社  
 株式会社トヨタレンタリース札幌  
 株式会社奈る美  
 株式会社南香園  
 西山製麺株式会社  
 日糧製パン株式会社  
 日本アクセス北海道株式会社  
 日本データサービス株式会社  
 ネットトヨタ札幌株式会社  
 株式会社博善社  
 富士ゼロックス北海道株式会社  
 藤山倉庫株式会社  
 株式会社ブラザー輸送  
 ビルドプロテック株式会社  
 株式会社フィール  
 株式会社ベルックス  
 富久居産業株式会社

株式会社宝石の玉屋  
 藤井設備株式会社  
 北央信用組合  
 株式会社ホクスイ設計コンサル  
 株式会社ホクレン商事  
 北海電気工事株式会社  
 株式会社北海道観光物産興社  
 株式会社北海道技術コンサルタン  
 北海道消防機材株式会社  
 ALSOK北海道株式会社  
 株式会社北海道日建設計  
 北海道日産自動車株式会社  
 北海道ビルサービス株式会社  
 一般社団法人北海道ビルザンク協会  
 北海道物流開発株式会社  
 株式会社ほくといホールディングス  
 北光営繕株式会社  
 北興化工機株式会社  
 株式会社マキ商会  
 松岡満運輸株式会社  
 株式会社丸一泉商店  
 丸大畜産株式会社  
 ミナミ石油株式会社  
 株式会社宮田自動車商会  
 明星自動車株式会社  
 株式会社村本印房  
 株式会社メディアプラン  
 株式会社山口電気機械工務所  
 和光技研株式会社  
 北陽ビルサービス株式会社  
 丸共農産商事株式会社



写真撮影：富井純朗氏

---

北の志づめ 第206号

令和元年6月1日発行

---

〒064-8505  
札幌市中央区宮ヶ丘474  
電話 011-611-0261  
FAX 011-611-0264

北海道神宮社務所